

まず、豚房から豚を追い出し、豚舎内の通路で豚を一旦留置した後、殺処分場所である豚舎外通路まで豚を追い込む。ベニヤ板越しに電殺を行った後、薬殺を実施し、豚の死亡を確認後、豚舎外通路の外に死体を搬出し、死体をフレコンに詰め込み、フォークリフトでフレコンを搬出する流れとした（図2）。



図2 現場写真

また、当日使用する資材については、事前に農場に持ち込み消毒を実施した。飼養衛生管理上の観点から、フレコンや豚の追い込みに使用するコンパネなど、農場で用意できる資材については可能な限り農場で用意し、それ以外は家保から持ち込んだ（図3）。

【家保で用意】	【農場で用意】
<ul style="list-style-type: none"> 電殺機×2(1台は予備) 防護服1式 薬殺用シリンジ+針 リーダー、サブリーダー用ピブス デジカメ×2(1台は予備) ワイヤー式豚保定器(死体運搬用) ロープ(死体運搬用) ヘルメット(フォークリフト運転手) ブルーシート(死体運搬用) 延長コード(電殺機用) 耐電手袋 	<ul style="list-style-type: none"> フレコンバック パコマ フォークリフト 追い込み用コンパネ

図3 必要資材

演習当日は家保6名、農場2名の計8名が参加し、豚の追い込みやフォークリフトの運転は、農場職員が実施した。演習に供する豚が1頭であったこと、スムーズな動画を撮影するため、電殺と薬殺については他県発生時に豚熱防疫経験者が実施した。死体は、脚をロープで固定しロープをフォークリフトのツメにかけ、吊

り上げてフレコンへの詰め込みを実施したが、ロープが外れたり、切れたりする可能性も考えられるため、労働安全も考慮した死体の詰め込み方法を検討する必要があることが分かった。撮影した動画は約10分間に編集し、防疫作業の経験が無い人にも豚の追い込みから死体の搬出までの一連の流れが分かるよう、テロップで解説のコメントを付けたうえで、所内に共有した。

後日、母豚1頭と肥育豚1頭を用いて、同農場にて再度所内演習と動画撮影を実施した。肥育豚は、防疫作業未経験の職員が、前回の所内演習で撮影した動画を事前に閲覧したうえで、電殺、薬殺を実施した。職員が電殺を実施したところ、電殺機で豚を挟んでも電気が流れず、最初は電殺機の不具合を疑ったが、実際には、電殺機での豚の挟み込みが甘いために電気が流れていないことが分かった。電殺機を正しく扱えるようになるには、実際に豚を使用することが重要と考えられる。母豚の殺処分については、肥育豚よりも危険を伴うため、防疫作業経験者が実施した。電殺の手順として、最初に脳に通電し失神させた後、心臓への通電を行う。心臓への通電は、必要に応じて複数回実施する。今回、母豚の電殺時に、2回目の心臓通電をかけようとしたところ、電気が流れない不具合が発生した。使用した電殺機の説明書をみると、脳通電は2~6秒、心臓通電は4~10秒と記載されており、最初の脳通電でそれ以上の秒数をかけてしまったため、負荷がかかって回路が遮断された可能性が考えられた。都内ではこれまで豚熱の発生が無いため、備蓄していた電殺機について、前回の所内演習が初めての使用、母豚に対しては今回の所内演習が初めての使用であったが、このようなトラブルが起こりえることが判明した。なお、今回の所内演習で撮影した動画についても所内に共有した。

「防疫演習」の取り組み

都では、豚熱や鳥インフルエンザ発生時の防疫作業に、農林水産部局職員を防疫要員として動員することとしており、毎年、防疫要員を対象とした、特定家畜伝染病防疫演習を実施している。この演習は、講義・実地演習で構成されており、共に主に鳥インフルエンザに関する内容である。また、2021年度より、コロナ対策のため、講義については動画共有サービス「YouTube」で事前に配信を行っている。2022年度、所内演習で撮影した動画を講義資料として配信すると共に、実地演習でも、豚熱の防疫作業の説明を実施した。動画の配信にあたり、実際の防疫作業の様子を理解してもらうためにも、撮影した動画をそのまま配信しようと考えていたが、防疫要員は、一般職が多いことから、殺処分シーンや、死体の映像をそのまま配信するべきではないと考え、殺処分以降のシーンについては、イラストで代用した（図4）。

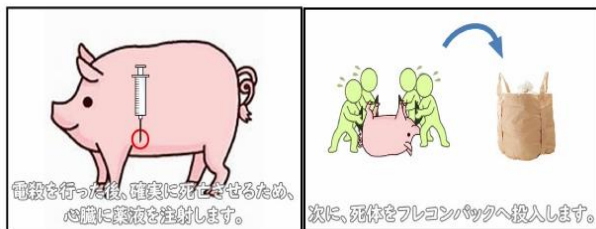


図4 防疫演習配信動画

動画時間は、殺処分以降のシーンをイラストで代用したこともあり、元の動画時間の約半分の5分間となった。動画の再生回数は73回であった。防疫演習参加者にアンケートを実施し、講義内容について、1から5の5段階で評価してもらったところ、「よく分かった」が10名、「分かった」が8名、「どちらともいえない」が5名となり、「分からなかった」と回答した人はいなかった（図5）。

○動画タイトル：豚の殺処分の流れ
動画時間：約5分
再生回数：73回

○防疫演習参加者にアンケートを実施
(23名から回答)

講義内容について、下記の5段階で評価

- 1：よく分かった
- 2：分かった
- 3：どちらともいえない
- 4：分からなかった
- 5：全く分からなかった

講義⑥豚の殺処分の流れ



図5 防疫演習配信動画（豚熱）へのアンケート

なお、例年通り、鳥インフルエンザに関する内容等についても講義資料を配信した。豚熱の講義資料を含め全部で6つの講義を配信しており、他の講義についてもアンケートを実施しているが、豚熱の講義のみ大きく結果が異なるということはなく、どの講義も概ね変わらない結果となった（図6）。



図6 防疫演習配信動画（豚熱以外）へのアンケート

実地演習では、豚のぬいぐるみや電殺機、追い込み用のコンパネなどを用いて、防疫作業の概要及び防疫要員が実施する作業の内容について説明を行った（図7）。



図7 防疫演習（実地演習）

まとめ

豚の殺処分に関する所内演習と、防疫演習において豚熱に関する講義を新たに実施し、防疫作業未経験の職員を含む家保職員の習熟及び防疫要員の豚熱の防疫作業に関する理解醸成に貢献した。今回の所内演習では肥育豚及び母豚を使用した。今後、離乳豚や雄豚を用いた演習も実施していきたい。また、防疫演習においても、実際に豚を使用するなど、実地演習の内容を充実化していく必要がある。豚熱発生時には、迅速かつ安全な防疫措置が求められることから、今後もこうした取り組みを続け、適切に対応できるよう取り組んでいく。